

化学系薬学部会より

## 第6回次世代シンポレクチャーシップ賞受賞講演報告

松本 晃

Akira MATSUMOTO  
金沢大学医薬保健研究域薬学系助教



筆者は第23回次世代を担う有機化学シンポジウムにおける第6回レクチャーシップ賞の受賞に伴い、2025年11月17日から5日間、香港の大学を巡って講演する機会をいただいた。研究者の国際的な可視性を高めることが重要な昨今において、若手研究者に海外講演と国際交流の機会を提供する本賞は極めて貴重である。今回、香港科技大学(HKUST)の中村斐有先生にホストを務めていただき、同シンポジウムで素晴らしい講演をされた森崎一宏先生(北海道大学)とともに香港の4大学を巡る講演ツアーが実現したので、以下に報告する。

最初に訪れた香港城市大学(CityU)では、2018年より研究室を主宰されている松田侑大先生に研究室を案内していただいたが、その研究スペースの狭さには大変驚いた。この環境で本当に研究が進むのかと心配になったが、その後の若手PIの方々とのディスカッションでは独創性に富んだ様々な研究を紹介していただき、研究環境の制約に捉われない研究室運営の戦略が機能していることを実感した。筆者らの講演では、学生やPIの方々からいくつも鋭い質問をいただき、有意義な時間となった。

CityUとは対照的な広々としたキャンパスを擁するHKUSTでは、中村先生に加え、筆者が学生の頃から論文を拝読していたYong Huang先生ともディスカッションさせていただいた。硫黄イリドを用いた最新のカルベン化学をご紹介いただき、リンイリドをラジカル反応に利用する筆者の研究とも比較しながら、濃密な時間を過ごすことができた。

香港中文大学(CUHK)では、同世代の若手PIであるHairong Lyu先生にホストをしていただいた。独自の非対称ジボロンを用いた最新の研究も大変興味深いものであったが、ディスカッションの合間に伺った香港の研究事情についての話も印象的だった。



図1 香港中文大学での講演会後の写真

ホストのHairong Lyu先生(左から1番目)、松本(左から2番目)、森崎先生(左から3番目)。

香港では、どのPIも学生・ポストクの雇用費を自らの研究費で確保する必要があり、特に独立したばかりの若手PIにとって毎年の研究費申請は相当なプレッシャーを伴う。高い研究遂行能力だけでなく、優れたマネジメント能力も独立直後から必要とされる研究室運営の厳しさを垣間見る機会となった。

最後に訪問した香港大学(HKU)では、超分子化学がご専門の大黒耕先生にホストをしていただいた。純粋な有機合成を専門とする研究者は多くなかったものの、講演では幸い質問も挙がり、自身の研究に興味を持ってもらえたようであった。その後の大黒先生とのディスカッションでは、独自の分子と超分子化学者ならではの視点で展開していく研究が興味深く、研究の魅せ方も大変勉強になった。

本講演ツアーを通して、多くの研究者と活発なディスカッションを行い、ハイレベルな香港の化学を肌で感じつつ、同世代の研究者とも血の通った交流ができた。今後は、本ツアーで出会った研究者と切磋琢磨しながら独自の研究に磨きをかけ、末永く続くよい友好関係を築いていきたい。

キーワード

次世代シンポレクチャーシップ賞、講演ツアー、香港

Copyright © 2026 The Pharmaceutical Society of Japan